

Title	仕様共通化の意義を考える : 図書館システムのあり方は変わるのか
Author(s)	久保山, 健
Citation	
Version Type	AM
URL	https://hdl.handle.net/11094/14162
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

仕様共通化の意義を考える

ー図書館システムのあり方は変わるのか

久保山 健 (KUBOYAMA Takeshi)

大阪大学 情報推進部 情報基盤課 (図書館システム担当)

<August 23, 2009>

大図研第40回全国大会 (in 前橋), 図書館システム分科会

会場: 前橋テルサ

本日の骨子

1. 自己紹介
2. 現状
3. 視点
4. カスタマイズを巡る議論
5. システム仕様の共通化

要旨

国立大の図書館では、通常、4-5年毎にシステム(ハード、ソフト)を入れ替えます。そのたびに自館に合わせた"カスタマイズ"を予算と相談の上、実施することも多い。

業務の標準化が一つの機関から、複数館に広がる可能性はあるのか。参加者からの事例紹介も含め、目的、課題等について、議論したい。

システム調達(維持)コストの低減や、業務中心からサービス中心ということも、以前から語られているが、今ひとつ浸透していない印象もある。

1. 自己紹介

- ◆ 久保山 健 (くぼやま たけし)
- ◆ 大阪府 寝屋川市 在住
- ◆ 現在の所属: 大阪大学 情報推進部
情報基盤課 図書館システム担当 (4年+)
- ◆ 経歴: 図書受入、雑誌全般、図書の契約、和漢書の目録
- ◆ 大阪大学附属図書館が使用している業務システム: NEC LICSU-Web
(*)契約期間: 2007.3.~2012.3.

2. 現状 (1)

: 国立大図書館のシステム更新

- ・ 約5年毎に更新。仕様書に基づく入札
- ・ パッケージシステムを導入
- ・ パッケージシステムで実現できない機能は、「カスタマイズ」
その分、コストに跳ね返る
- ・ 但し、大阪大学の一部の事務システムでは、HWとSWを分けて”買取”契約も

2. 現状 (2)

: 私立大図書館のシステム更新

- ・いくつかのパターンがあるかと
- (a) ハードとソフトを分けて、随時更新する（同じソフトを継続的に使う）
- (b) ”買取”で契約して、随時更新する

2. 現状 (3)

: ピッツバーグ大学図書館の例

<口頭、ないし別途資料2点にて>

3. 視点 (1)

: 図書館”業務”システムの立ち位置

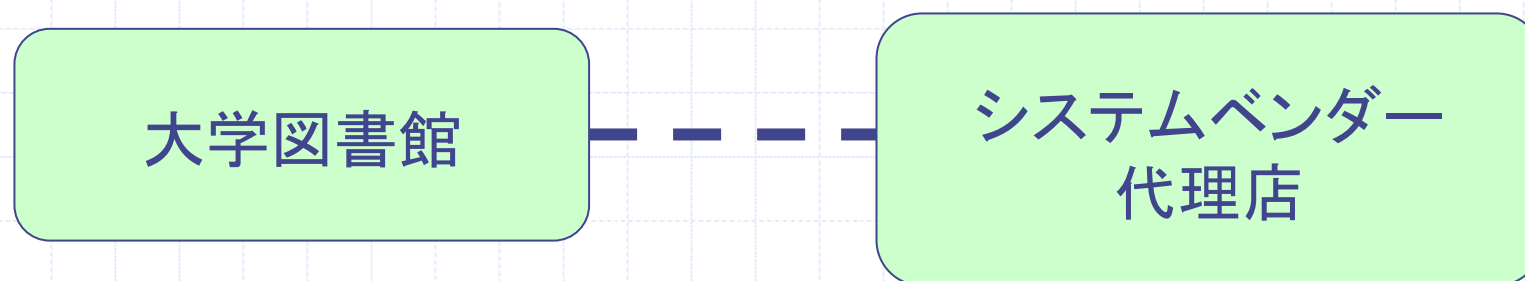
- ・ 図書館のサービス、業務の基盤（ではある）
- ・（「業務」に焦点を当てると）一つの部局の業務を支えているだけ
 - 財務システムや教務システムと比べてみると？
- ・ サービス面でいわゆる”目玉”がなければどうなる？

3. 視点 (2)

：システムをよくするには

- ・ ユーザ会で意見 「育てる」
そのような発想が我々にあったか
文句だけだったとしたら？
- ・ 一方、国立大図書館。5年毎のリリース。
制度的には、長期的にお付き合いできない。
- ・ 一部の私学のように、同じシステムを
10年程度使うのであれば、また別か。

3. 視点 (3) : 対立? 協調?



- ・ **大学図書館**

提供するサービスが電子的に、かつ空間的にも広がる中で、自館だけで展開していけるのか。

3. 視点 (4)

:カスタマイズ? パッケージのまま?

- ・ 総論としては、カスタマイズを少なく
(経費低減のためであり、資源を新しい
ことに投入するため)
- ・ 導入途中の改良も受けやすい
- ・ パッケージそのまま = 業務フローの変
更も、5年毎に行うのか???
- ・ 長期的にお付き合いできるベンダーさ
んの必要性

3. 視点 (5) : 個人的な着想点

○次世代OPACについて検討していると...

- ・あとからカスタマイズするより、より良いパッケージシステム
- ・大学図書館側の意見も集約できれば、開発(市場調査)経費の圧縮も?
- ・一方で、ベンダー側のご意見(一部)
大学図書館側の考えが見えない
個別館で考えが異なる
→開発・実装へのハードル?
→やはり、まずは情報交換・意見交換か

3. 視点 (6 ; 余談的に)

: 図書館システムに収益構造?

(ARG・岡本真氏、NEC・高野一枝氏、
2009.2.19. NEC図書館研究会での発言から)

- ・ 投下できるコストの(グローバル企業との)違い
- ・ 構造 = 人口数や館数と比べたベンダーの多さ ; 市場規模も日本のみ
- ・ 数をまとめて、利益の出る構造を作れないか。

※先細りにならないためには?

4. カスタマイズを巡る議論 (1)

◆カスタマイズは少なくとの意見の例

○カスタマイズが多いと、経費もかかる。

さらに次のシステム更新の時にも、またカスタマイズしたら、その分、経費もかかる。

パッケージに合わせて、業務を変えていただかないと困る

○大規模の国立大図書館の多くは、これまでカスタマイズの「成功経験」

(電算化を比較的早期にしていたという背景も?)

4. カスタマイズを巡る議論 (2)

◆ カスタマイズは少なくとの意見の例

○きちんとフローを分析して、無駄なカスタマイズ(帳票とか)はやめてほしい。業務フローを変えるのは大変かもしれないけど。

4. カスタマイズを巡る議論 (3)

◆カスタマイズするとの意見の例

- 特定業務の担当者にしたら、その業務を問題なく行うことが最低限の責任（カスタマイズ要望のベース）
- 「便利だから」とか、「これまでそうしてきたから」とか
- カスタマイズによって効率化できて、現員の数で仕事を回している
- 5年で変わるかもしれないのに、業務フローを変えるって言うんですか？

5. システム仕様の共通化 (1)

- ◆ 上記の論点が合致する所になる可能性
- ◆ 目的、期待される効果
 - コスト
 - (パッケージシステムの)機能向上の反映
 - コミュニティ
 - 外部サービスのノウハウ共有

5. システム仕様の共通化 (2)

◆ 一足飛びにできるわけではない

↑ パッケージに合わせた業務

↑ 図書館間の連携

◆ ユーザ会や横の連携

- パッケージシステムへの反映
- (結果として)パッケージに合わせた業務
- (結果として)仕様の共通化

5. システム仕様の共通化 (3)

◆個別図書館での業務の標準化

これが効率化につながる というのは概ね共通理解

◆複数図書館での標準化へ

これが個別大学図書館の効率化につながり、サービス向上 へという議論へ

◆サービス(利用者)中心の図書館(図書館システム)へ

http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/j/projects/si/systemwg_report.pdf

5. システム仕様の共通化 (4)

◆ ユーザ会や横の連携の一例

○ 私立大学 キャンパスシステム研究会

- ・ 第四分科会(図書・学術情報)
- ・ 富士通さんが事務局

<http://www.cskn.or.jp/cs4/bunkakai4.htm>

○ 他社の事例は?

○ ベンダー側のメリット

○ ベンダー側のコスト

ベンダーさんに甘える構造だけで?

大学側が枠組みを作ることができるか?

5. システム仕様の共通化 (5)

◆一つの未来形

○カナダ・オンタリオ州の3つの大学図書館による、システムの「共用」の例

- TriUniversity Group of Libraries

<http://www.tug-libraries.on.ca/>

- 久保山論文（情報の科学と技術）

http://nels.nii.ac.jp/els/110007005995.pdf?id=ART0008923159&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1250319624&cp=

5. システム仕様の共通化 (6:補足)

◆「オープンソース化」

ーオープンソースを大学側が自力で導入することについては疑問あり(人材、人員、時間の観点)

ーベンダーのサポート付きなら、あり得る

ー商売として成り立つものでないとベンダーもやる気が出ない?

結果として弱体化? / 利益が出る構造も必要?

5. システム仕様の共通化 (7)

◆ 課題

○ 具体的手段

- ・まずは、方向付けと同じパッケージを使う館同士で
- ・時間の制約も

○ 国立系の機関は、“入札”の仕組み

- 長期的にお付き合いできない制度
- ハードとソフトを分けて契約するとか？

5. システム仕様の共通化 (8:補足)

(参考)

- ・6月17日、東京で同じような話題がありました。

林賢紀氏

「OPACと図書館システムの「次」を目指して」

<http://researchmap.jp/tzhaya/資料公開/>

東京西地区大学図書館協議会2009年度研修セミナー

「図書館システムを再び考えるーベンダーと図書館サイドが望むシステム機能ー」

ご静聴ありがとうございました。
続きはディスカッションで

